



TITLE:

臨床活動報告「がん患者さんとそのご家族のためのウエルネスセッション」研究会の活動

AUTHOR(S):

齋藤, ゆみ; 稲本, 俊; 我部山, キヨ子; 若村, 智子; 黒木, 裕士; 木下, 彩栄; 横出, 正之; ... 龍野, 和恵; 平田, 明美; 尾崎, 幹子

CITATION:

齋藤, ゆみ ...[et al]. 臨床活動報告「がん患者さんとそのご家族のためのウエルネスセッション」研究会の活動. 京都大学医学部保健学科紀要: 健康科学 2007, 3: 45-48

ISSUE DATE:

2007-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/48840>

RIGHT:

臨床活動報告 — 4 —

「がん患者さんとそのご家族のための ウエルネスセクション」研究会の活動

齋藤 ゆみ*, 稲本 俊*, 我部山キヨ子*, 若村 智子*
黒木 裕士*, 木下 彩栄*, 横出 正之**, 光森 道英**
中村 隆之**, 多田 春江**, 宇都宮宏子***, 龍野 和恵***
平田 明美***, 尾崎 幹子***

はじめに

2005年の健康科学に「がん患者さんとその御家族のためのウエルネスセクション」研究会設立の経緯と活動組織、活動内容、活動の展望（図1）などを報告した。その後、「がん患者さんとその御家族のためのウエルネスセクション」研究会は毎月1回の定例研究会議を重ね、現在第18回を数えることになった（表1）。曲がりなりにもここまで研究会が継続し、多少の進展を見ることができたのは会員の皆さんや学生・市民ボランティア会員、保健学科の支援があつてこそと、深く感謝申し上げる。

この1年間の活動を通して得たものは当初の理念や組織活動、活動計画などの実施・実現が如何に多難であるかと言う実感と、しかし一方で地道に辛抱強く継続して来たことで目的達成に向かって乗り越えるべき課題が徐々に明確になってきたことである。そして最大の成果はこの間の本学学生を含む他学部、他大学の院生などの若い方々や市民ボランティアの方々、患者さんやご家族の支援者の方々の増加によって、同じ目標に向かう仲間のエネルギーが結集し、微々たる歩みではあるが活動の着実な進歩を実感することができたことである。今回は研究会活動の軌跡とこの間の活動で見えてきた研究会の課題を明確にし、さらに今後の

ウエルネスセクションの目的と機能

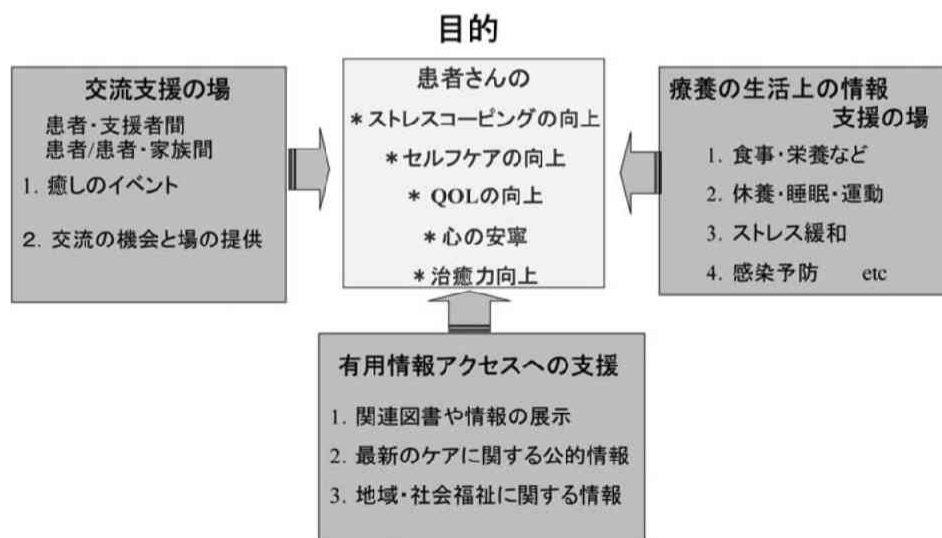


図4 「がん患者さんとそのご家族のためのウエルネスセクション」の展望

* 京都大学医学部 保健学科
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kyoto University

** 京都大学医学部附属病院
Kyoto University Hospital

*** 京都大学医学部附属病院看護部
Department of nursing, Kyoto University Hospital

受稿日 2006年9月15日

表1 「がん患者さんとそのご家族のためのウエルネスセッション」研究会の活動概要

会議回 日時 (定例会議：毎月第2火曜午後6時～別館309)	主な討議内容、活動内容など		参加者数
第7回 2005 9/13 第8回 10/11 第9回 11/08 第10回 12/13 12月21日 14:00～16:00 京大病院外来棟西3階	* 「がん患者さんとそのご家族のためのウエルネスセッション」設置に関する研究—本件に関する患者・家族ニーズおよび協力者の把握に関するアンケート調査を京都大学医学部倫理委員会に申請 * 「ウエルネスクリスマス」の催しに関する検討、プログラムの決定 * 患者・家族ニーズおよび協力者の把握に関するアンケート調査の倫理委員会からの承認 (E-94 11/28) * 平成18年度厚生科研への助成申請 * 今後の活動方針を決定 「うきうきして治癒力アップしませんか」ウエルネスクリスマス開催 合唱、楽器演奏、クイズ、ジャグリングなど 京大病院主催・ウエルネス研究会 (略称) 共催 参加者へのアンケート結果を京大病院へ報告 患者参加数 約100名 アンケート回収80名、大いに満足・満足 82～76%		8名 11名 17名 16名 協力者：学生、教職員名、市民ボランティア計31名余、演奏プロ参加2名
第11回 2006 1/10	* ウエルネスクリスマス会 結果報告 * E-94 倫理委員会承認のアンケート実施に関する具体化 * 2006年の年間活動計画の検討 ・年間の活動としてシンポジウムの開催を決定。 ・定例会議の一部を会員の話題提供による学習会とすることを決定 * 新年会開催		16名
会議回 日時	主な討議内容、活動内容など	話題テーマ・提供者	参加者
第12回 2/14	* 研究会記録の保存管理に関して (黒木担当) * 研究会への財政支援および寄付 (会議用備品の購入、運営費)	「放射線治療を受ける乳がん患者に対するケアの現状」尾崎幹子 (放射線科外来)	16名
第13回 3/14	* 第41回日本心身医学会「サイコオンコロジー」に関する報告 (齋藤) * アンケートの回収状況報告 * 病院患者図書について報告 (西崎)	「乳がん治療の最新の動向」稲本 俊 (保健学科)	11名
第14回 4/18 定例会議を第3火曜変更	* 会計報告 * シンポジウムの概要、役割分担検討	「癌とリハビリテーション」黒木裕士 (保健学科)	14名
第15回 5/16	* シンポジウム実施計画の検討	「がん患者さんの療養を支援するために」宇都宮宏子 (地域ネットワーク医療部)	10名
第16回 6/20	* シンポジウムの具体化に関して検討 * 国立病院機構 大阪井原センターの患者情報室について報告 (西崎)	「がん患者サポートグループについて」齋藤ゆみ (保健学科)	14名
第17回 7/25	ウエルネスシンポジウムに関する患者アンケートの結果報告	参加者全員による「ウエルネス」とは、に関する討論。	20名
第18回 8/29	シンポジウム決定 (患者参加) 日時：平成18年10月26日 (木) 場所：京都教育文化会館ホール * シンポジウムの宣伝活動について検討	シンポジウムの概要については別紙	13名

展望をお示ししたいと考える。

1 「がん患者さんとそのご家族のためのウエルネスセッション」設置のための研究会活動の軌跡

研究会運営組織の中の活動部門として相談検討・教育プログラム検討・有用情報検討・交流支援検討部門

の4領域を定めそれぞれの領域の責任者を選出して実施に向けた活動計画を作成した。しかし、すぐに行き詰った。実働部員の不足や活動場所の「ウエルネスセッション」を設置すること事態が五里霧中にある中、何から始めるべきか見当がつかない状態であった。まずは2領域の交流支援と有用情報提供部門に絞って活動をすすめる、前期は12月の「ウエルネスクリスマス

会」開催に向け「ウエルネス」やウエルネスセクション研究会の理解を広めていくことに活動の焦点を定めた。

ウエルネスクリスマス会はウエルネス研究会（略称）の学生会員の企画協力で医学部・他学部の学生の出演や患者さん・そのご家族の方々、多くの市民ボランティアの方々の協力を得ることができ、当日は入院中の患者さんや外来通院中の患者さんなど沢山の方々が参加され、病院当局からも高い評価を得ることができた（表1、2参照）。

ウエルネス研究会の初めての催しを成功させたことによって会員全体に自信と誇りが生まれた。

しかし、このことに喜んでばかりはいられない。クリスマスイベントの終了後の課題がすぐさま頭をもたげ、学生会員も含めた会員全員が研究会の今後に危機感を感じた。

この打開策として毎回の定例会議の中に話題提供と

して「がんの医療やケア、研究」に関する30分程度の講演を会員の持ち回りでを行い、そのテーマを深く学ぶこととした。これは第12回会議より実施した。会員がウエルネスセクション研究会の理論的根拠を学び、自信を持って活動を開拓していく力を得る機会になると期待している。

2 「ウエルネスセクション」研究会の目的の明確化と今後の課題

療養者が「ウエルネス」を達成するには治療はもとより、人の健康に関する「心身相関」の概念を基本として、「自己治癒力の活性化」や「QOLの維持・向上」のために身体的・心理・社会的な多様なニーズに対応する多面的な支援が必要である。また、一方でウエルネスは結局のところ療養者自身が自らの主体的判断によって「生き方」を選択することである。したがって療養者に選択しうる多様な選択肢（情報）を提

表2 ウエルネスクリスマス結果報告（一部割愛して自由記載のみ）

2005 ウエルネスクリスマス会アンケート結果（自由に記載された感想文）

- *今日はすごく楽しかった。きれいな歌声とジャグリング、大道芸もすごく良かった。素敵なおクリスマス。ハートマーク
- *全員での合唱曲がもう少しあれば良いと思う。聞くのもいいけど自分が参加するともっと楽しくなる。有難うございました。
- *途中で帰ります。すみません。2年半くらい前に入院していたとき、音楽会を聞きました。今日は外来でしたが、とても良かったです。
- *後ろの方だったので、見えにくかったけど良かった。
- *クリスマスの時間以外にも聞かれるほうが入院している患者にとっては、楽しみがあって良いと思います。
- *二時間あまり大変楽しかったです。
- *仕事の都合で、三時半からのみしか聞かせていただけず、残念でしたが、市民の会の皆様、お上手で楽しませていただきました。なじみの曲を演奏していただき良かったです。
- *ここで聞かせていただくと、歌も演奏もいっそう心に染み入るごとく、聞かせていただけました。
- *ありがとう
- *ヴァイオリンの作曲者も紹介してください。このような場所では、日本語で歌った方が、皆様に分かると思います。そして、明るい歌が？小さいお子様（入院患者）
- *ジャグリングが楽しかった。風船ありがとう
- *明日退院だし、病院での楽しい思い出ができました。
- *2〜3時までリハビリだったので、前半が見られなくて残念だった。たいそうもクイズも楽しかった。学生さんが、一生懸命でかわいかった。月に一度くらいこんな楽しい会があれば良いと思います。久しぶりに声を出して歌えて楽しかった。
- *暗くなりがちな闘病生活に、明るく癒されました。素敵なおクリスマスプレゼントをありがとう。
- *楽しかったです。
- *とても楽しく見せていただきました。心より満足させていただきました。皆様、とてもお上手でした。
- *ともすれば、ふさがちな患者各位の心のケアとして、大変良い企画と思います。今後も、継続されることを祈ります。計画・進行された学生方たちの気持ちに感謝します。
- *歌だけでなく、大道芸などがあり良かった。もう少し広いスペースがあればさらに良い。
- *あえて書かせていただきます。クリスマスは、キリスト教の宗教行事で、イエスキリストの誕生祭。世間ではケーキを食べる日とか、企業に踊らされていますが、公共の施設で、特定の宗教行事は、行わないほうがよいと思います。宗教色はないけれど、池田大作、松本チズオの誕生日を祝ったらみんな怒るでしょう。ネーミングを変えて、サンタクロースの衣装を止めてもらったら良いのでは？
- *ヴァイオリン・ピアノが素晴らしい。
- *ジャグリングのコスチュームを洗濯してください。クイズ前半の誰でも分かるのは止めてください。
- *美しい歌声に、心の安らぎ思いでした。また、生で聞くピアノにバイオリンとても素敵でした。少し足が不自由な私ですが、コンサートに来て良かったと思います。大道芸もはじめて見ました。楽しいひと時メルシー！
- *今日はすごく楽しかったです。演奏合唱はすごく良かったです。ジャグリングはすごく面白かったです。クイズに優勝しました。

供するのがサポートグループとしてのウエルネス研究会の目的であり、「ウエルネスセクション」の役割であると考えている。

このような「ウエルネスセクション」が高度先進医療を行う京大病院に設置されるとすれば画期的なことである。

現在ウエルネス研究会は京大病院、医学部保健学科の関係者有志による一研究会であり、研究会の主張を現実化するには困難なことが多い。これを乗り越える方策は会員自らの創意と工夫によって築き上げていくしかない。現在、ウエルネス研究会医療関係者や一般社会人への「ウエルネス」概念の浸透と会員拡大を目標に活動が続けている。具体的には「ウエルネスシンポジウム」を企画し、その実現に向けて努力している。

参 考 文 献

- 1) S.K. Agarwal and G.D. Marshall: Stress effects on immunity and its apprication to clinical immunology. *Clinical and Experimental Allergy*, 2001 ; 31 : 25-31, 2001
- 2) E. Rosenbaum, H. Gautier, P. Fobair, A. Andrews, M. Hawn, R. Kurshner, B. Festa, P. Kramer, F. Manuel, N. Hirschberger, S. Selim, D. Spiegel: Developing a free supportive care program for cancer patients within an integrative medicine clinic. *Support Care Cancer*, 2003 ; 11 : 263-269
- 3) 黒木裕士, 林 章敏, 黒田英樹, 橋本茂治, 塩治龍介, 仲 正宏: リハビリテーションの実施内容. 第9回日本緩和医療学会総会, 2004 ; 6 : 17-18, 札幌, 第9回日本緩和医療学会総会プログラム演題抄録集, p.163, 2004
- 4) Hiroshi Kuroki, Akitoshi Hayashi, Kazunari Yamamoto, Hideki Kuroda, Masahiro Naka, Akiko Kawatsu, Ryusuke Shioji: Contents of rehabilitative intervention in hospice. The 6th Asia Pacific Hospice Conference, March 16-19, 2005, Seoul, Korea, abstract page #AB028